

「スポーツを楽しむ気持ちに障害は関係ないんだ」。東京都多摩市に今月開店したスポーツカフェバー「E's CAFE」の白杵美砂店長（24）は大学3年の時、「CP サッカー」と出会い、文字通り人生が変わった。

選手は肢体不自由で、つえがなくても動けることが条件。7人制の狭いフィールドで懸命にボールを追う選手たちの姿に感動し、競技運営のボランティアに。卒業後は支援団体のパラ SC エスペランサに就職。日本財団の協力で開いたカフェバーを任された。

店はフットサル場に併設され、CP サッカーの選

手ら障害者も働く。競技のイベントもあり、店内のモニターで障害者スポーツの映像も流れる。白杵さんは「障害者でも仕事と競技が両立できるようにしたい。多くの人と交流できる場になれば」と抱負を語る。

店は障害者の就労支援施設として認可されている。国によると同種施設の従業員は平均月収6万円台にとどまっている。店は月給10万円以上を目指しており、客をどう増やしていくか、知恵を絞る日々が続く。

（毎日新聞・東京（夕刊） 2017年3月13日）